

平成22年度 長岡市地域コミュニティ事業補助金申込書

1. 申込団体の概要および申込事業の計画等【公開対象】

ふりがな	のうそんこみゆにていかふえをすいしんするかい		
団体名	農村コミュニティカフェを推進する会		
代表者氏名	(肩書:代表) 今井 千尋		
設立年月日	昭和・平成 22年 4月 1日	構成員数	6人
設立目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 人づきあいが希薄になりがちな地方都市、特に農村部において、“コミュニティカフェ(別紙1参照)”の手法を用いて、新たな人と人の結びつきを生み出し、“ココで暮らしていける誇り”を取り戻す。 ● 様々な人と出会う場(コミュニティカフェ)を運営することで、地域社会における新たな活動の創造機会を創出し、老若男女問わず参画できる活発な地域づくり活動に関わる機会を生み出す。 ● 小国地域の若者発の地域づくり手法として、長岡地域に“コミュニティカフェ”の手法の浸透を図る。 		
これまでの活動実績	<p>(社)中越防災安全推進機構が取り組む防災グリーンツーリズム事業(別紙2参照)内で小国地域を対象とした活動の一環として、コミュニティカフェづくりの活動が生まれた。3回の会議を経て、トライアル事業として以下の2回を実施した。</p> <p>2010/2/14 コミュニティカフェ “へそ茶” @なじょらい市</p> <p>2010/3/14 コミュニティカフェ “へそ茶” @KISSCAFE</p>		
添付資料	事業計画	・別添「第3号様式 事業計画書」のとおり	
	収支予算等	・別添「第4号様式 事業の収支予算書」のとおり	
	その他、団体をPRするパンフレット等	有 ・ <input checked="" type="radio"/> (どちらかに○印)	

2. 申込団体の連絡先等【公開、非公開を選択※】

事務所所在地	長岡市小国町法坂 676 スペース企画ビル3F	<input checked="" type="radio"/> 公開 ・ 非公開	
電話・FAX番号等	電話 0258-41-9011 FAX 0258-41-9012	<input checked="" type="radio"/> 公開 ・ 非公開	
	Eメールアドレス takuya.nishizawa@yamanokurashi.jp		
担当者連絡先	氏名	西澤 卓也	<input checked="" type="radio"/> 公開 ・ 非公開
	住所	長岡市小国町法坂 676 スペース企画ビル3	
	電話・FAX番号等	電話 0258-41-9011 FAX 0258-41-9012 Email takuya.nishizawa@yamanokurashi.jp	
添付資料	名簿またはこれに類するもの	・別添のとおり	<input checked="" type="radio"/> 公開 ・ 非公開
	規約またはこれに類するもの	・別添のとおり	<input checked="" type="radio"/> 公開 ・ 非公開

※ 個人情報保護の観点から、広く公開してもよいものなら“公開”に、そうでないものは“非公開”に○を付けてください。

※ 2の添付資料(名簿類・規約類)については、交付審査の際の資料として審査関係者に提示する場合があります。

事業計画書

事業名	農村コミュニティカフェ事業
事業実施の目的	緩やかな人のつながりを生み出すコミュニティカフェの手法を用いて、様々な人と活動が交差する自由な空間を運営することで、地域社会における新たな活動の創造機会を創出し、老若男女問わず参画できる活発な地域づくり活動に関わる機会を生み出す。
事業内容	<p>●コミュニティカフェ勉強会の実施 会員・サポートメンバーを中心に、月一回程度の勉強会を実施する。運営方法や事業内容を話し合い、交流拠点としてのコミュニティカフェ実施システムを検討する。</p> <p>●小国地域でのコミュニティカフェの開催 小国地域内で、農村らしい場を利用したコミュニティカフェを期間限定開催。 小国地域でのコミュニティカフェの浸透と仲間づくり、イベント型コミュニティカフェのシステム開発を検討する。</p> <p>●長岡市域での出張コミュニティカフェの開催 長岡市域で開催される各種イベントにて、出張コミュニティカフェを出店する。コミュニティカフェの手法の浸透と、各地の活動団体とのネットワーク形成を行う。</p> <p>●都市農村交流コミュニティカフェの開催 前年度に引き続き、東京都「KISSCAFE」への研修を兼ねた出張カフェを行う。拠点間の交流による都市農村交流の実践と、コミュニティカフェ先進地のノウハウを学び、団体間のさらなる連携を図る。</p> <p>●コミュニティカフェ・プチフォーラムの開催 コミュニティカフェを実際に運営して、「やってみてわかったこと」「今後に向けた課題」などを、ゲストを交えて話し合う公開討論会。オープンな場で開催することで、活動の発信・浸透を行う。</p>
事業実施までのスケジュール	<p>2010年6月～ 小国地域内でのコミュニティカフェ勉強会開催(月1回予定)</p> <p>2010年7or8月 小国地域でのコミュニティカフェ開催</p> <p>2010年12月 都市農村交流コミュニティカフェ</p> <p>2011年2月 コミュニティカフェ・プチフォーラム(公開討論会)</p> <p>随時 長岡市内で開催される震災復興イベント等へのコミュニティカフェの出店</p>
地域活性化の波及性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップ、コミュニティスペースの運営等により、参加者に対して小国地域に暮らすことの“魅力付け”がされる。 ・ 情報受発信の機会に乏しい農村において、次世代の担い手である若者のための情報収集・発信拠点がつくられる。 ・ 若者の地域づくり活動への参画のきっかけとなる。 ・ 農村におけるベテラン世代から次世代への引継ぎ作業の機会・環境を創出できる。 ・ 拠点を介して、都市と農村の生活者が相互に顔が見える環境で、直接的かつ継続的な関係を保つことができる。 ・ “情報集約拠点間の交流による都市農村交流”という、新しい民間交流の在り方を提案できる。

※ 事業の内容は、詳細に記載してください。(別紙可)

事業の収支予算書

収入の部

(単位:円)

項 目		予算額	内 訳
地域コミュニティ事業補助金(F)		333,000	
自己資金		83,775	
特定財源	寄附金		
	参加費		
	その他収入金	30,000	コミュニティカフェ売上(200円×30人×5回)
	小 計(D)	30,000	
その他			
合 計		446,775	

支出の部

(単位:円)

項 目		予算額	内 訳
補助対象経費	報償費	40,000	20,000円×2人
	旅費	17,400	講師旅費(東京⇄長岡 17,400円×1人)
		24,675	レンタカー代(KISSCAFE 研修会 2日分)
		11,400	高速道路利用料(KISSCAFE 研修会 小千谷⇄練馬)
		72,000	宿泊費(KISSCAFE 研修会 12,000円×6人)
		10,000	チラシ印刷(20円×500部)
	需要費	3,000	資料コピー代(10円×300枚)
		4,000	コピー用紙(5円×800枚)
		30,000	カフェ食材費①(イベント出店の場合)
		40,000	カフェ食材費①(小国コミュニティカフェ、KISSCAFE の場合)
		10,000	ガソリン代(KISSCAFE 研修会)
		10,000	小国コミュニティカフェ会場借上げ料(1日)
	使用料	26,000	KISSCAFE 使用料(1日)
		5,300	公開討論会会場使用料
		3,000	イベント出店料(1,000円×3回)
		95,000	イベント用具一式レンタル(19,000円×5回) (エスプレッソマシン、食器、机、椅子等)
	役務費	5,000	臨時飲食店許可
		30,000	検便(7,500円×4人)
	原材料費	10,000	小国コミュニティカフェ会場装饰材料費
		小 計(C)	446,775
補助対象外経費			
	小 計(B)		
合 計(A)		446,775	

地域コミュニティ
事業補助金申込額

下記(F)の額を記入

3

3

3

0

0

0

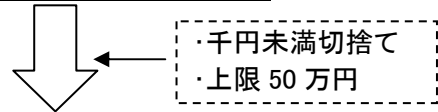
円

【地域コミュニティ事業補助金申込額算出の基礎】

$$\begin{array}{rcccl} \text{支出の部合計(A)} & & \text{補助対象外経費(B)} & & \text{補助対象経費(C)} \\ \hline 446,775 \text{ 円} & - & 0 \text{ 円} & = & 446,775 \text{ 円} \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl} \text{事業を実施することによって得られる収入のうち、} & & \text{特定財源(D)} \\ \text{補助対象経費に充てるもの} & = & \hline & & 30,000 \text{ 円} \end{array}$$

$$\begin{array}{rcl} \text{(C)-(D)=補助金算出対象額} & & \text{補助金額(E)} \\ \hline 416,775 \text{ 円} & \times \text{ 補助率 } 80\% & = & \hline & & & 333,420 \text{ 円} \end{array}$$



地域コミュニティ事業補助金(F)

333,000 円

※ 項目欄が不足する場合は、同類の項目をまとめて記入し、細目は別紙に記載してご提出ください。

コミュニティカフェとは？

1、人と人が交差する自由な空間 地縁、血縁に頼れなくなっている現在、無理のない方法で、気楽に支えあえる地域社会の再構築と様々な人たちが集うことで ハード、ソフト両面のバリアフリー化の促進

2、あらゆる情報の交差点 様々な情報を交換する日常における偏った情報だけでなく、あらゆる角度から集まってくる情報により、生き甲斐、やりがい、生涯学習のチャンスにつながる

3、友達を作る（人的ネットワークを広げる） どこからでも参加できる仕組みを作ることにより、狭い地域での濃密な人間関係に陥ることなく、排他的な関係を脱し、広く 緩やかなネットワークを作ることにより、居心地のよい人間関係を再構築していく

4、もっと素敵な生き方にチャレンジするきっかけをもつ 様々な背景を持った人たちと出会うことにより、自分自身を改めて見つめなおすきっかけを持つことが出来、また、お互いの 経験をもとに相互のカウンセリング機能を持つことにより、再びチャレンジする勇気をもつことが出来るようになる

WAC コミュニティカフェ全国連絡会 HP より参照

参考とするコミュニティカフェ

- ・ KISSCAFE (<http://kiss-cafe.jp/>)
『まちのリビングルーム』を通じた『やりたい人』と『できる人』のマッチングを生み出す場。NPO 法人 Kiss 主催のコミュニティカフェ
- ・ common café (<http://www.talkin-about.com/cafe/>)
『さまざまな人による、さまざまな人のための、さまざまな居心地の、さまざまな空間。さまざまなつながりが、さまざまな方向へ向かったりすると、楽しい。』をコンセプトとした、“有志によるカフェ空間の共同維持活動（シェア）”によるコミュニティカフェ。
- ・ ワタミチ (<http://www.h03tr.com/watamichi.html>)
新潟市上古町を拠点として、『学ぶ＋考える＋カタチにする＋伝える＋繋がる＋楽しい』を基本コンセプトに学習会ベースの活動をする場。中小企業省「全国のがんばる商店街 77 選」に上古町が選ばれるなど、高い評価がある。

H21年度「地方の元気再生事業」
中越まるごと防災グリーンツーリズム 報告書からの抜粋

小国「継続的な交流」の体制を作るためのしくみづくり

■概要

○日時：平成21年11月～平成22年3月

○連携団体：NPO 法人 KISS、(財)山の暮らし再生機構 地域復興支援センター小国サテライト

○趣旨：

長岡市小国地域では、友好都市である武蔵野市との様々な交流が行われてきた。市町村合併により友好都市の絆が薄まってきていることの危機感から、去年は武蔵野市で文化交流事業を開催し、「OGUNI week」「オグニアラワル」など斬新な企画で、両地域の友好を深めるための活動を行った。今年、「多くの住民の参加」「資源の見直し」「推進体制主体の検討」の3つの柱を立てて、さらなる継続的な交流を進めていくための半年に及ぶWSとトライアルを開催する。

○内容

1. ワークショップ①：座談会「都市農村交流ってナンダ？」

実施日：2009年11月1日(日)

会場：小国公民館

目的：地域ぐるみでの交流に向け、交流に関する地域住民の参加を促し、共通認識を持つ

形式：座談会形式の意見交換会（ファシリテーター（全体進行役） Kiss 池谷）

内容：将来の自分たち（小国）の地域がどう在りたいか、という「グランドデザイン（基本計画）」のアイデア出し

対象：小国地域に暮らす人々

2. ワークショップ②：座談会・フィールド調査：「"つながる"ってナンダ？」

実施日：2009年11月29日(日)

会場：小国サテライト

目的：基本方針に基づき、地域の特性や資源を見直す→初回の意見を受けて、つながること・つながりかた・つながるために必要なモノ・コト・バシヨを考える

形式：WS、フィールドワーク（直接観察）

内容：つながる場所の事例研究、場所探しフィールド調査

対象：小国地域に暮らす人々

3. つながる場所トライアル第一弾「"つながるバシヨ"をつくってみる！」

実施日：2010年1月23日(土)

会場：なじょらい市

目的：小国地域の情報収集と発信、地域内の交流を促す拠点をつくりのための準備

形式：ロールプレイング

内容：小国地域で、つながるための拠点をつくり、そこでできること、起こることを考える

対象：小国地域に暮らす人々

4 .つながる場所トライアル第二弾「"つながるバシヨ"を運営してみる！」～へそ茶 vol.1

～

実施日：2010年2月14日(日)

会場：なじょらい市

目的：小国地域の情報収集と発信、地域内の交流を促す拠点での体験

形式：ロールプレイング

内容：小国地域の情報収集と発信、地域内の交流を促す拠点を運営し、そこで起こるコトを体験する

対象：小国地域に暮らす人々(広く広報)

5 .つながる場所トライアル第三弾「"つながるバシヨ"を運営してみる！」～へそ茶 vol.2

～

実施日：2009年3月中旬

会場：KISSCAFE (東京都杉並区荻窪)

目的：都市農村間の交流拠点をつなぎ、双方向から情報発信するとともに、都市農村間のつながり方を考える

形式：座談会(公開討論会)、トライアル

内容：都市における交流の場「KISSCAFE」と小国地域の拠点をつなぎ、「小国のできること」を共通の認識として捉え、トライアルによる発信と共に都市住民側のニーズを把握する

対象：小国地域に暮らす人々、都市に暮らす人々

○成果：

<ワークショップ①②の成果>

今回の事業では、友好都市である武蔵野市との継続的な交流のためのしくみづくりを一つの目標として掲げた。その検討WSの中で以下の2点が大きな気づきとして生まれた。

- ・「小国の中の人たちもつながる」「都市(武蔵野)ともつながる」拠点が重要だという事。
- ・これまで地域づくりを担ってきた中年・老年層ではなく、若手を中心にしてやったほうが良いという事。

<つながる場所トライアル>

WSでの気づきという成果を元に、小国地域の若手を中心(中学生も参加)に、みんながつながれる拠点のトライアルとして「コミュニティカフェ へそ茶」を開催することができた。このへそ茶では、WSに参加したメンバーがそれぞれのやりたいことを持ち込み開催された。ある人は、コーヒーを入れ、ある人はアクセサリーの販売、はたまたお米の販売や雪遊びなど、様々な個性が展開された。

また3月には、「都市とつながる」のトライアルとして、今回の事業パートナーであるNPO法人KISSの協力を得て、東京都杉並区荻窪にある「KISSCAFE」にて「へそ茶 in KISSCAFE」を開催することができた。

この一連のWSでは、これまでの小国の地域づくりの舞台には登場してこなかった多くの若者が楽しんで参加してくれたこと。また皆が「つながる場所」づくりを今後もやっていこうという気持ちが生まれたことが大きな成果であった。また、その一連のWSを都市部から事業パートナーとして参加してくれたNPO法人KISSのメンバーと行ったことにより、お互いのつながりが深まった。

○今後に向けて

成果の一方で、課題として具体的な継続的な交流のしくみづくりまでは行うことができなかった。成果として現れた小国の若手メンバーを主体に、交流のしくみづくりに踏み出していくことが必要である。またそのためにも、今回トライアルとして行った、「へそ茶」という「つながる場所」の運営を継続的に展開していくことが必要であり、そのための組織化や資金の獲得などが今後の課題としてあげられる。